

# 令和 4 年度第 3 回（第10回） 瑞穂町地域公共交通会議資料



令和 5 年 3 月 8 日 (水)  
場所：瑞穂町役場  
2 階会議室 2 - 1 • 2 - 2

# これまでの流れ・本日の報告事項、論点

## 【これまでの流れ】

- 令和3年10月の実証実験運行開始
- 実証実験運行開始まで、周知活動等を実施
- 実証実験運行後も引き続き周知活動を行いながら、利用状況を把握
- 令和4年度第1回～第2回会議で運行計画見直し(案)を検討

## 地域公共交通会議のスケジュールと主な議題

**令和3年10月  
実証実験  
運行開始**

令和4年度第1回  
令和4年9月28日  
・利用実態  
・運行計画見直し(案)  
・運行評価基準の考え方

令和4年度第2回  
令和4年12月27日  
・運行計画見直し(案)  
・運行評価基準の考え方  
・実証実験期間の延長

令和4年度第3回  
令和5年3月8日  
・運行計画の変更  
・運行評価基準の考え方  
・実証実験期間の延長

利用状況の把握、各種アンケート調査の実施

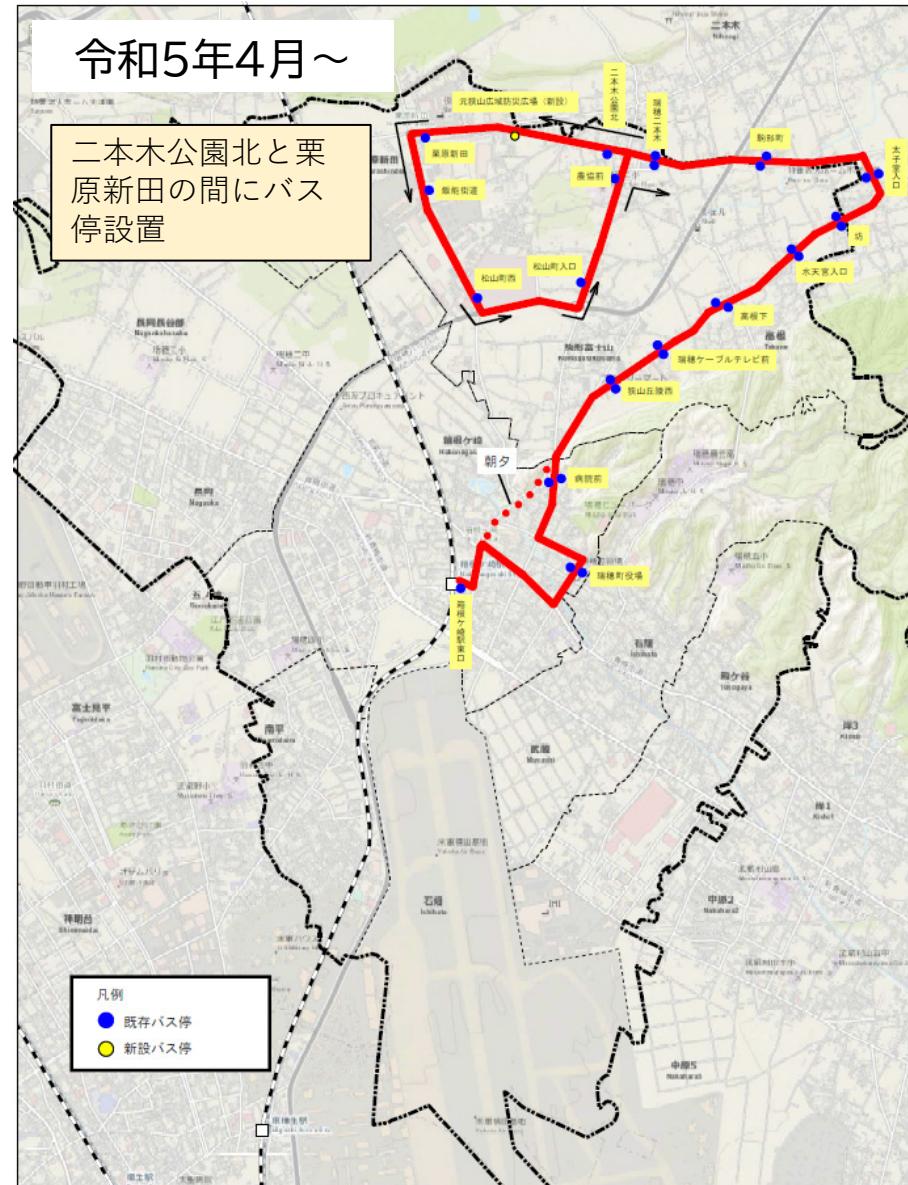
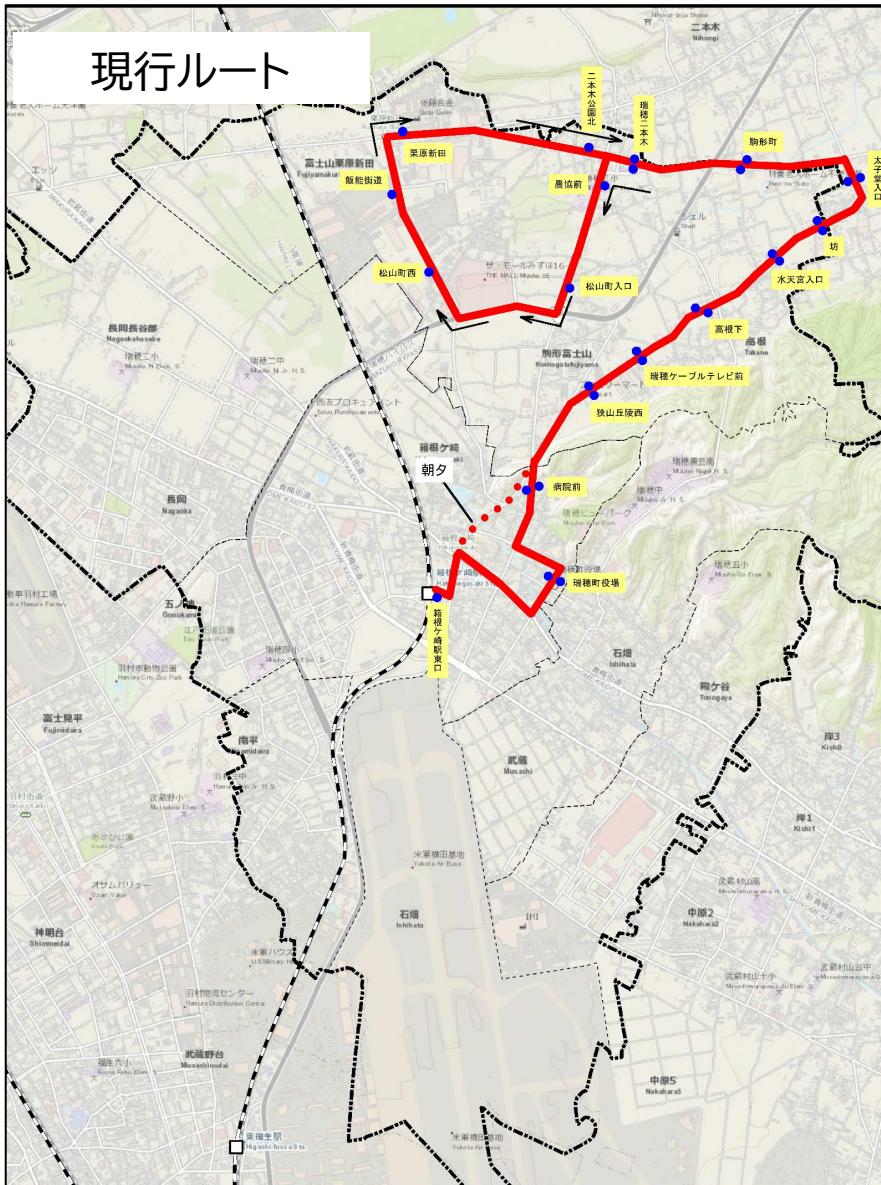
継続的な周知活動

## 【本日の報告・協議事項】

- |              |             |
|--------------|-------------|
| ● 運行計画の変更    | ● 利用実績      |
| ● 運行評価基準の考え方 | ● 実証実験期間の延長 |

# 1.運行計画の変更

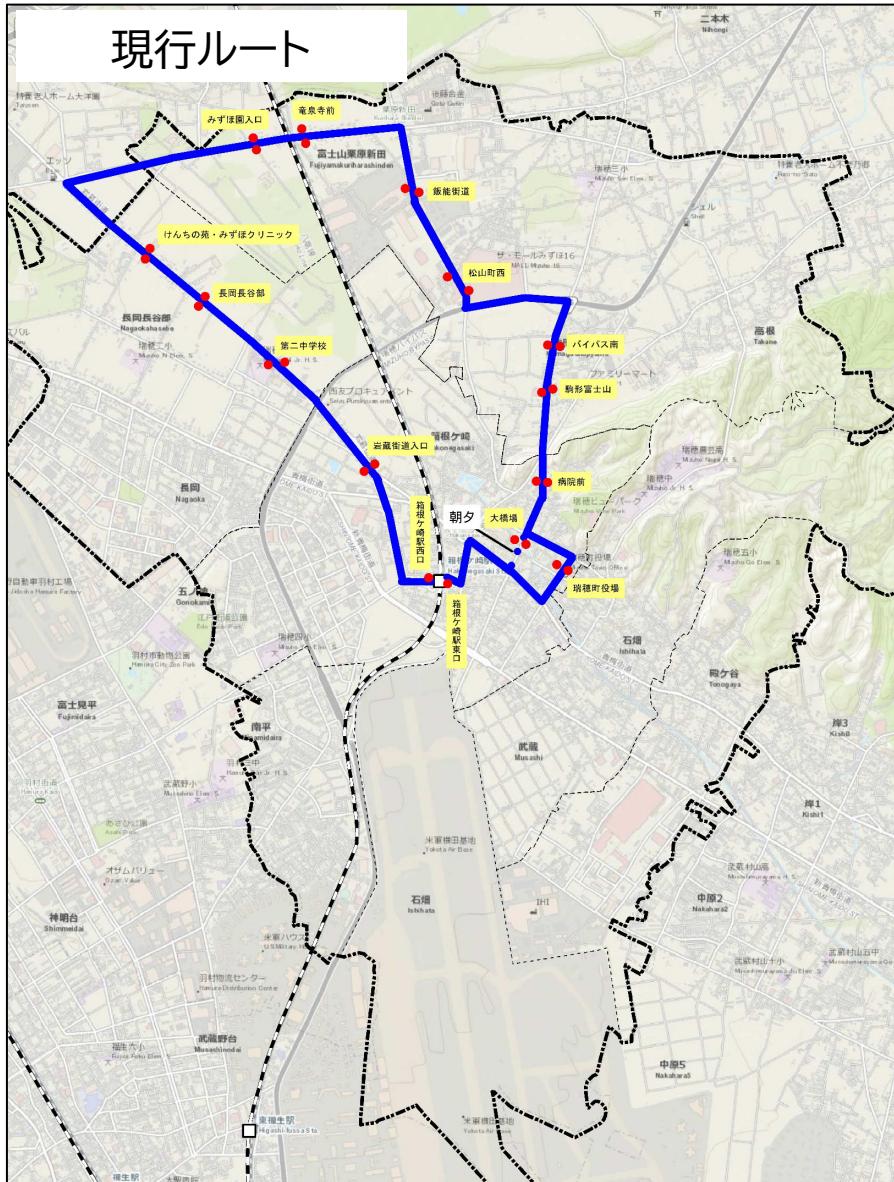
# 元狭山コース



## 元狭山・長岡コース

4

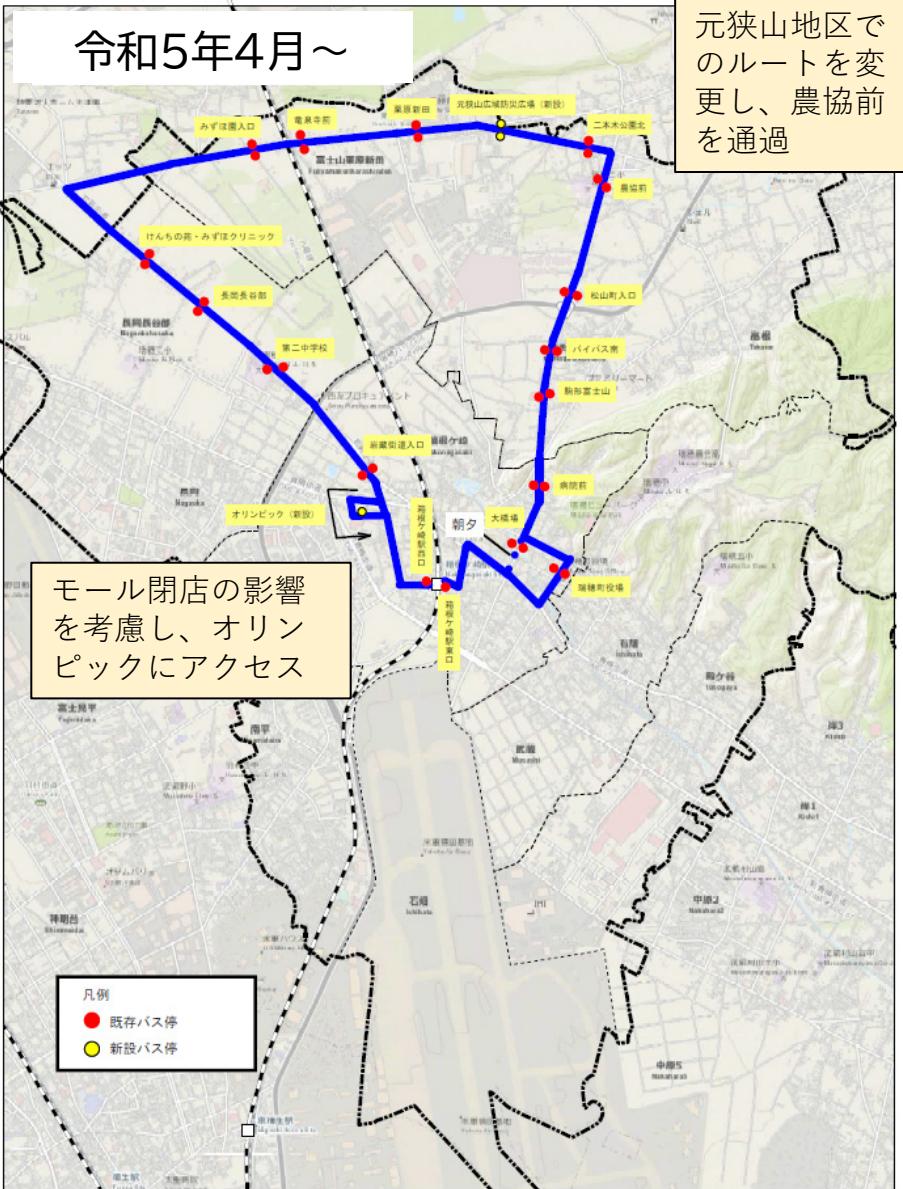
## 現行ルート



令和5年4月～

元狭山地区でのルートを変更し、農協前を通過

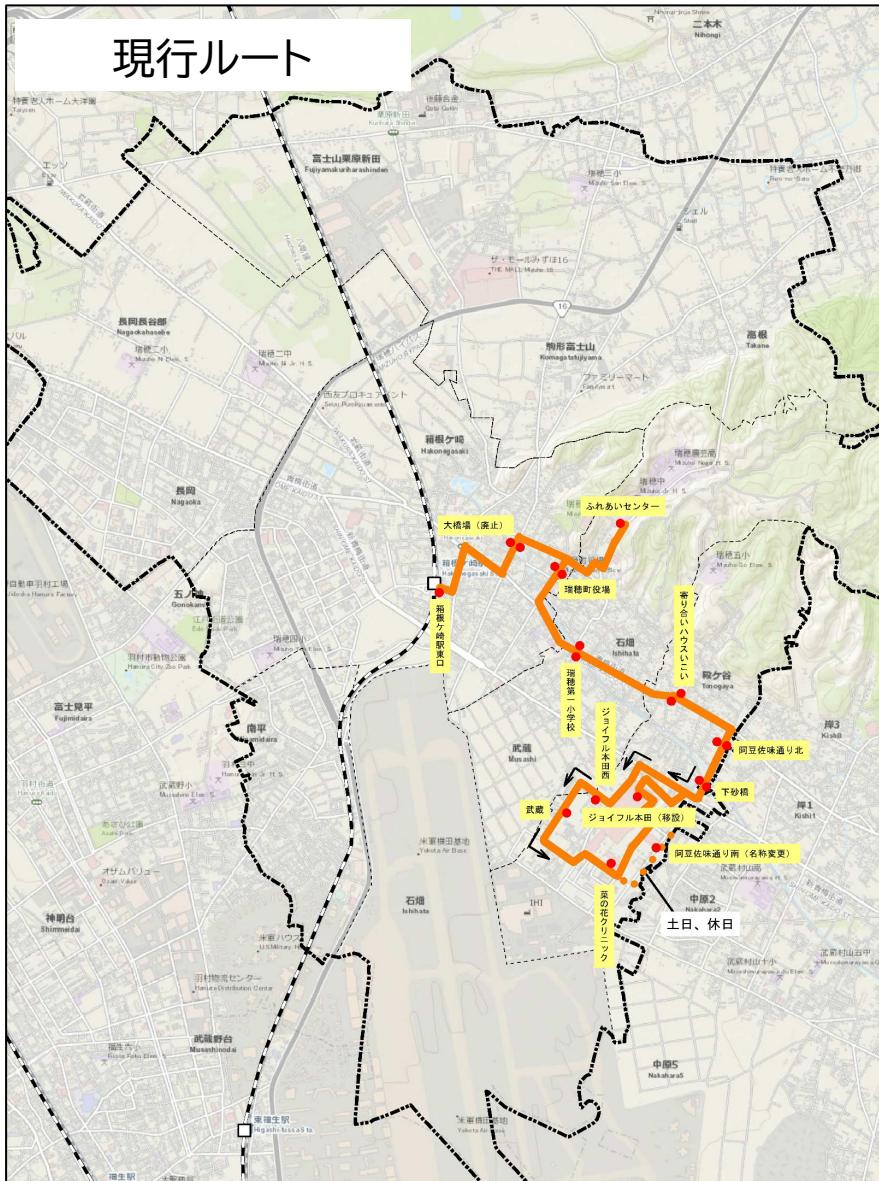
モール閉店の影響  
を考慮し、オリン  
ピックにアクセス



# 石畠・殿ヶ谷コース

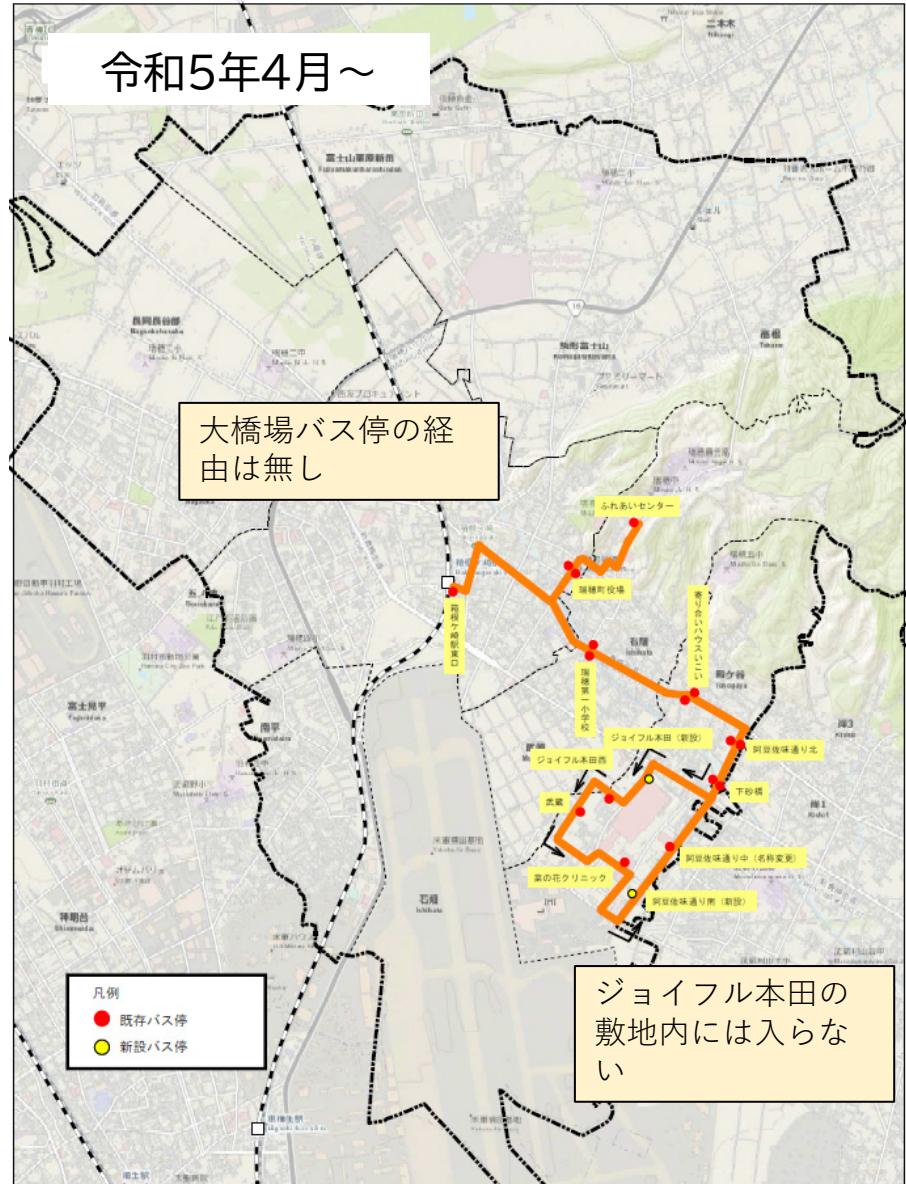
5

## 現行ルート

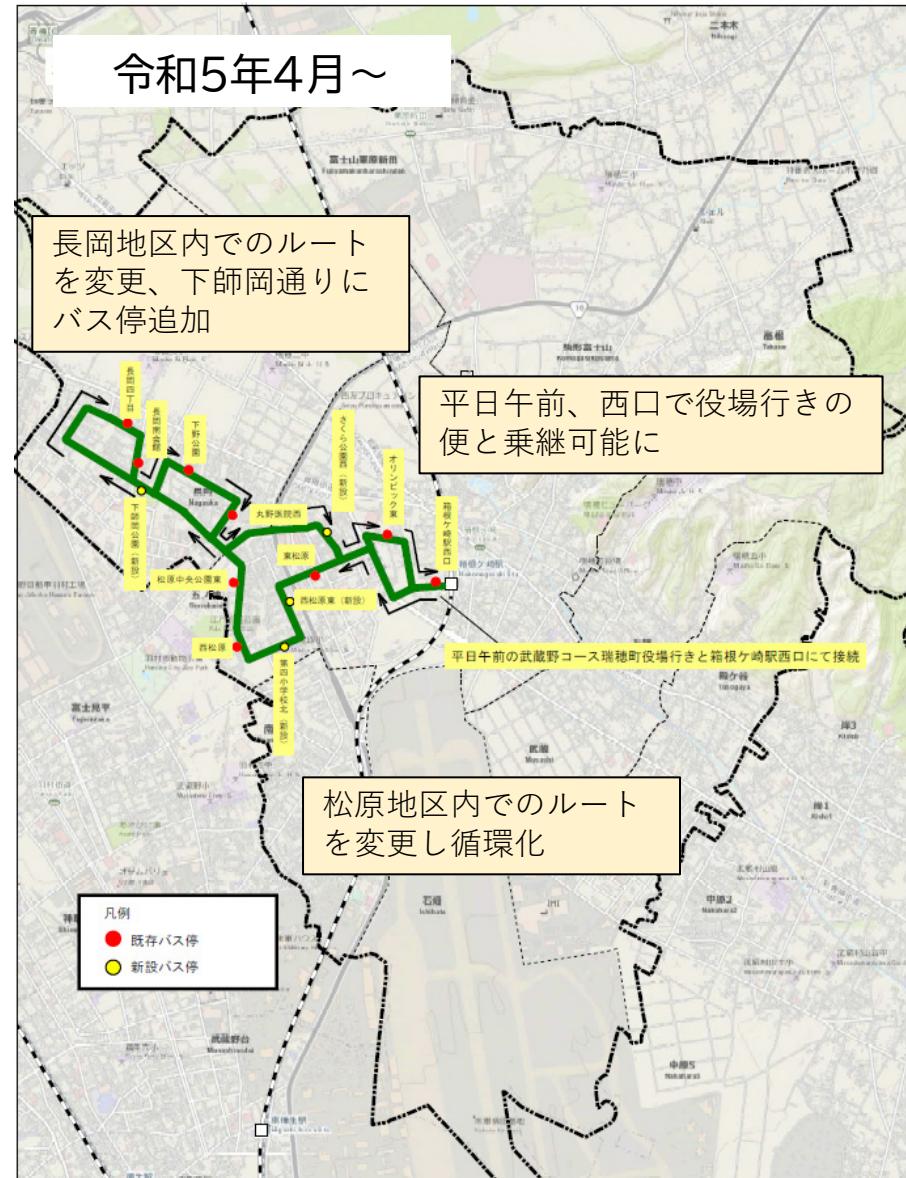
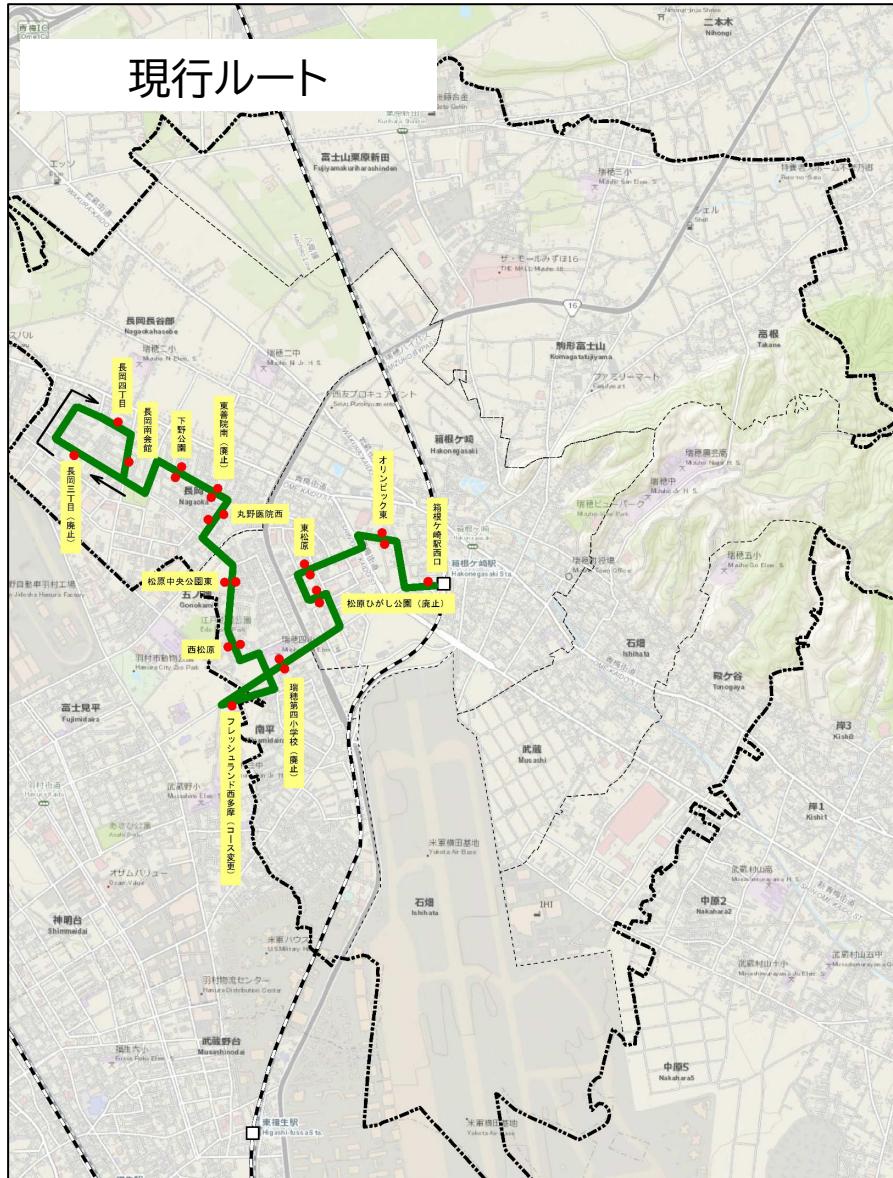


令和5年4月～

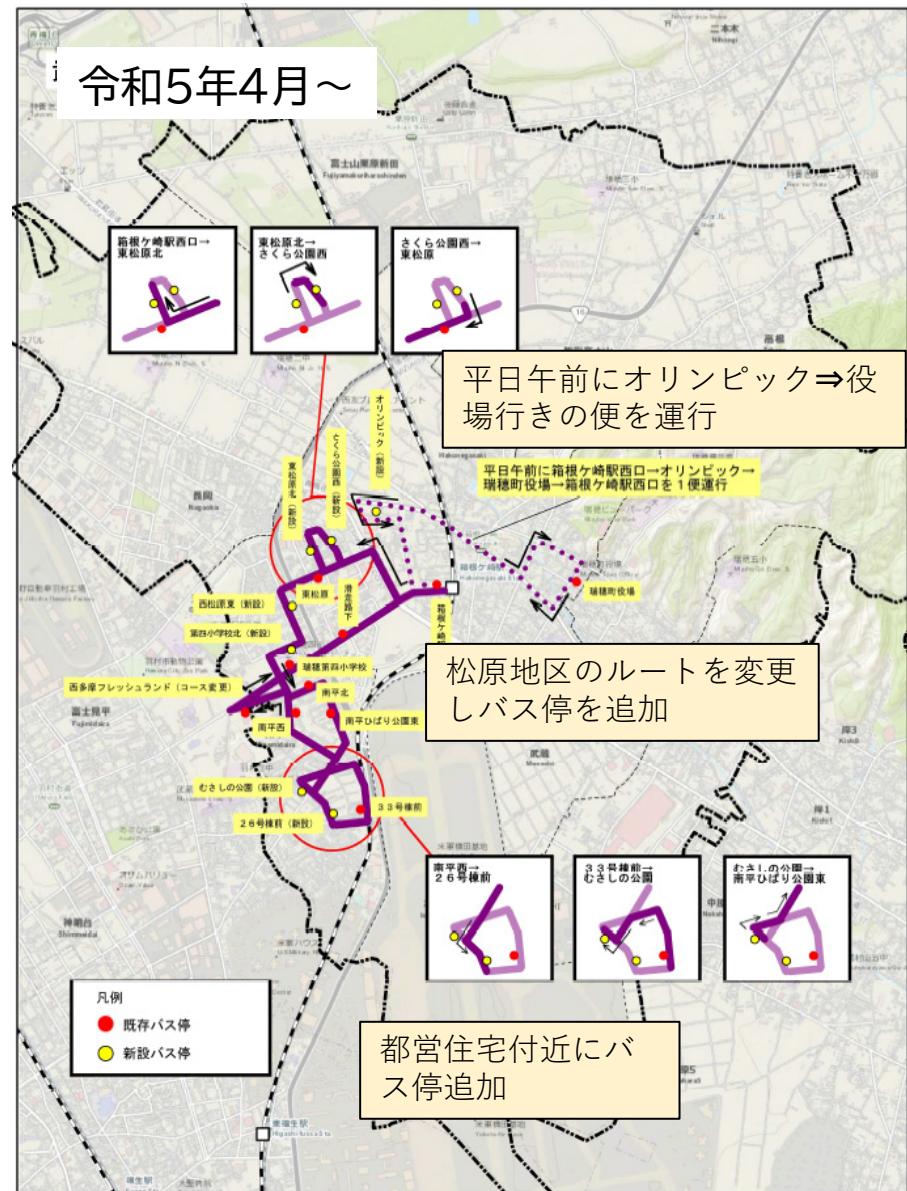
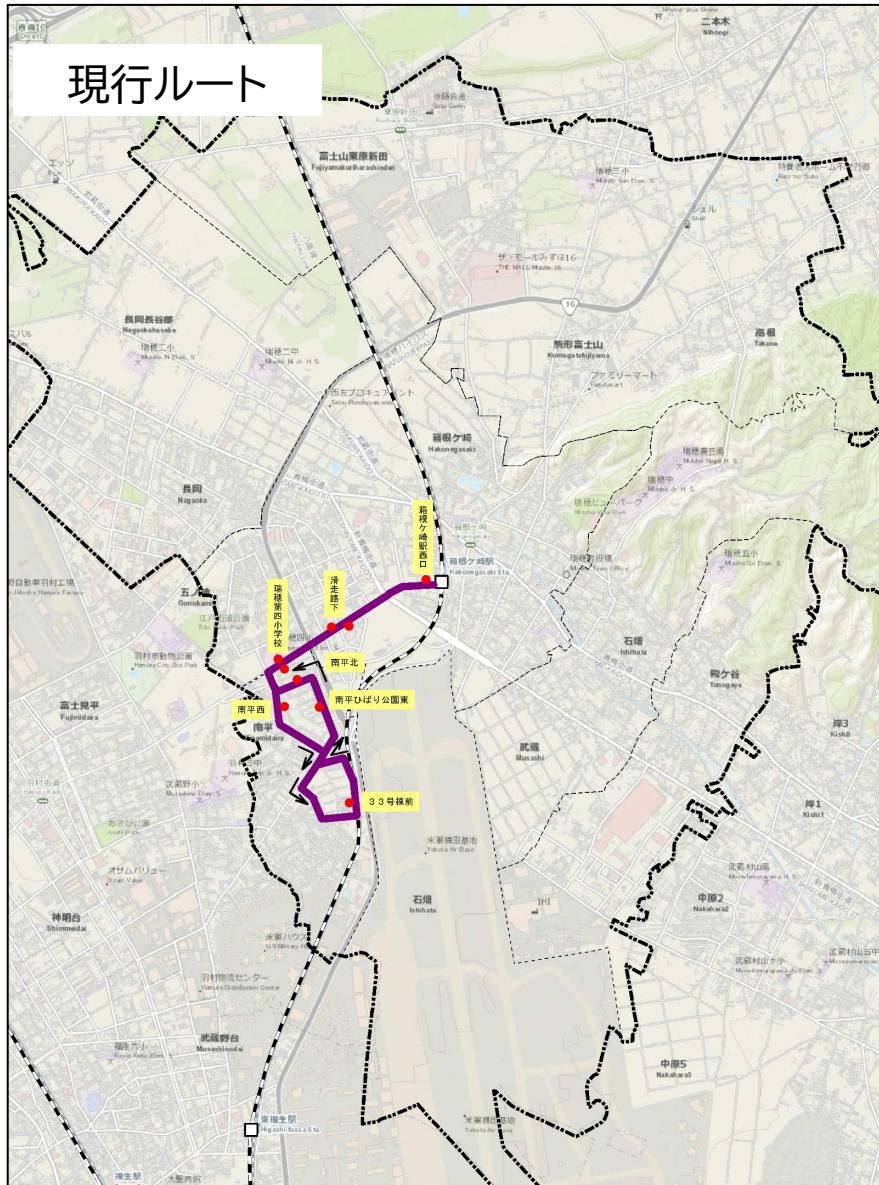
大橋場バス停の経由は無し



# 箱根ヶ崎・長岡コース



# 武藏野コース

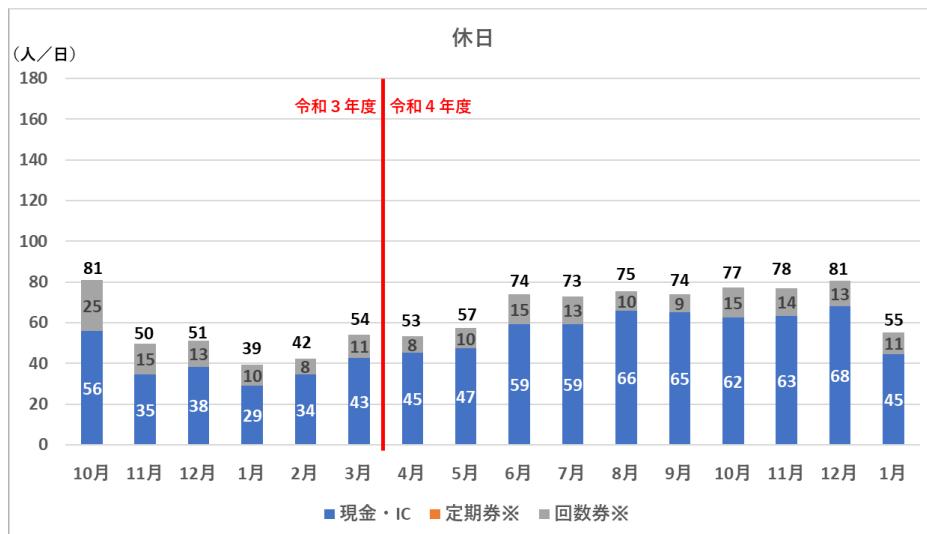
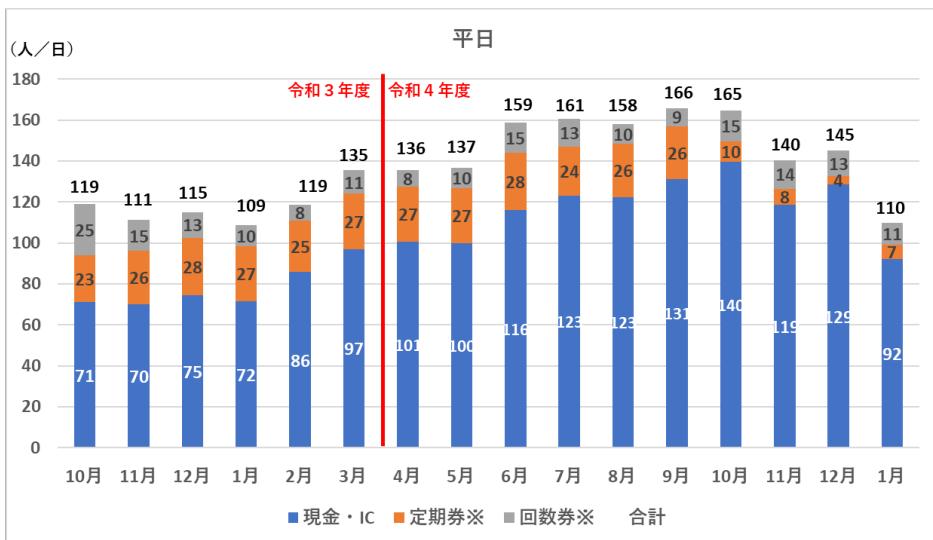


## 2. 利用実績

# 1) 1日当たりの乗車人員

- 定期券や回数券を含むと、1日当たりの乗車人員は平日約145人（12月時点）
- 1月は減少しているが季節変動の影響も大きく、今後の動きを注視

## ▼1日あたりの乗車人員（定期券・回数券含む）

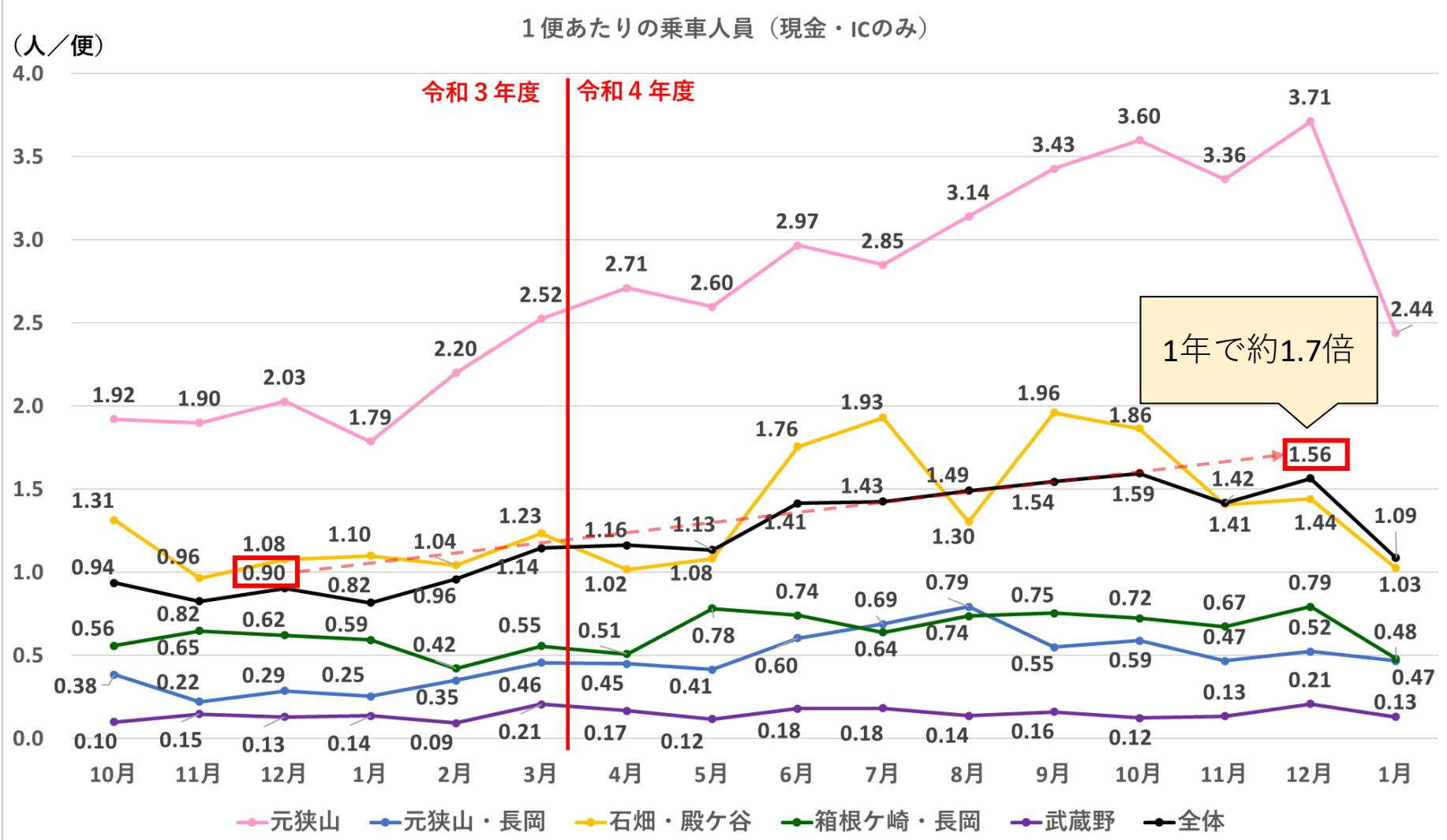


※定期券：購入者が平日を毎日利用すると想定

※回数券：回数券合計（販売枚数×11枚刷り）を運行日数で割り、1日当たりの平均を設定

## 2) 路線別の1便あたりの乗車人員

- 5路線全体では、12月時点では前年比の約1.7倍
- 1月は全路線で減少しており、元狭山コース以外は全体平均を下回る



### 3. 運行評価基準の考え方(案)

# 1) 運行実績（令和4年度4～12月概算）

- 概算収支率は5.7%で、昨年度の4.4%から1.3ポイント改善

令和4年4月～令和4年12月（9ヶ月間）

	計
運行経費(百万円)	98.8
運賃収入(百万円)※	5.6
町負担額(百万円)	93.2
収支率(%)	5.7%

※定期券、回数券を含む

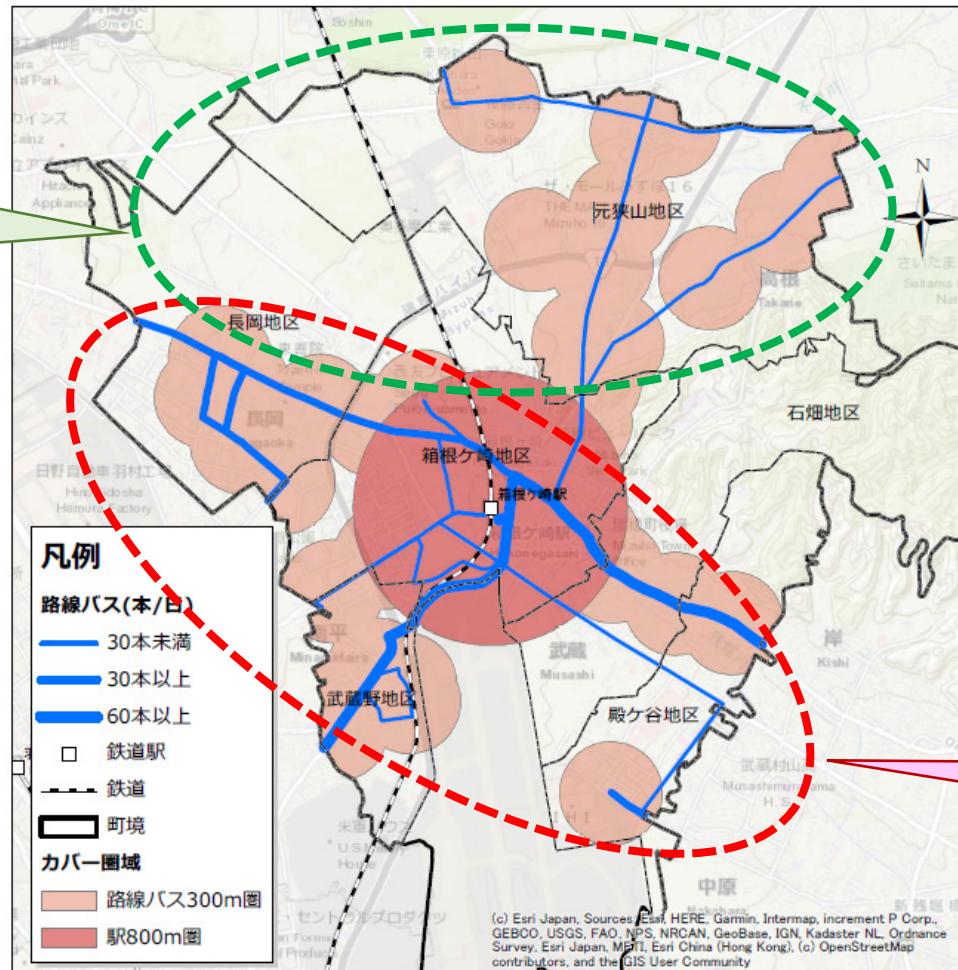
## 2) 運行評価基準の考え方（案）

13

## 鉄道、路線バスの運行状況

青梅街道よりも南部の地域は駅やバス停の利用圏域に多くの地域がカバーされているが、北部の地域は路線バスでカバーできない範囲が広いことから、瑞穂町が移動手段を確保することが必要

路線バスでカバーでき  
ない範囲が広い



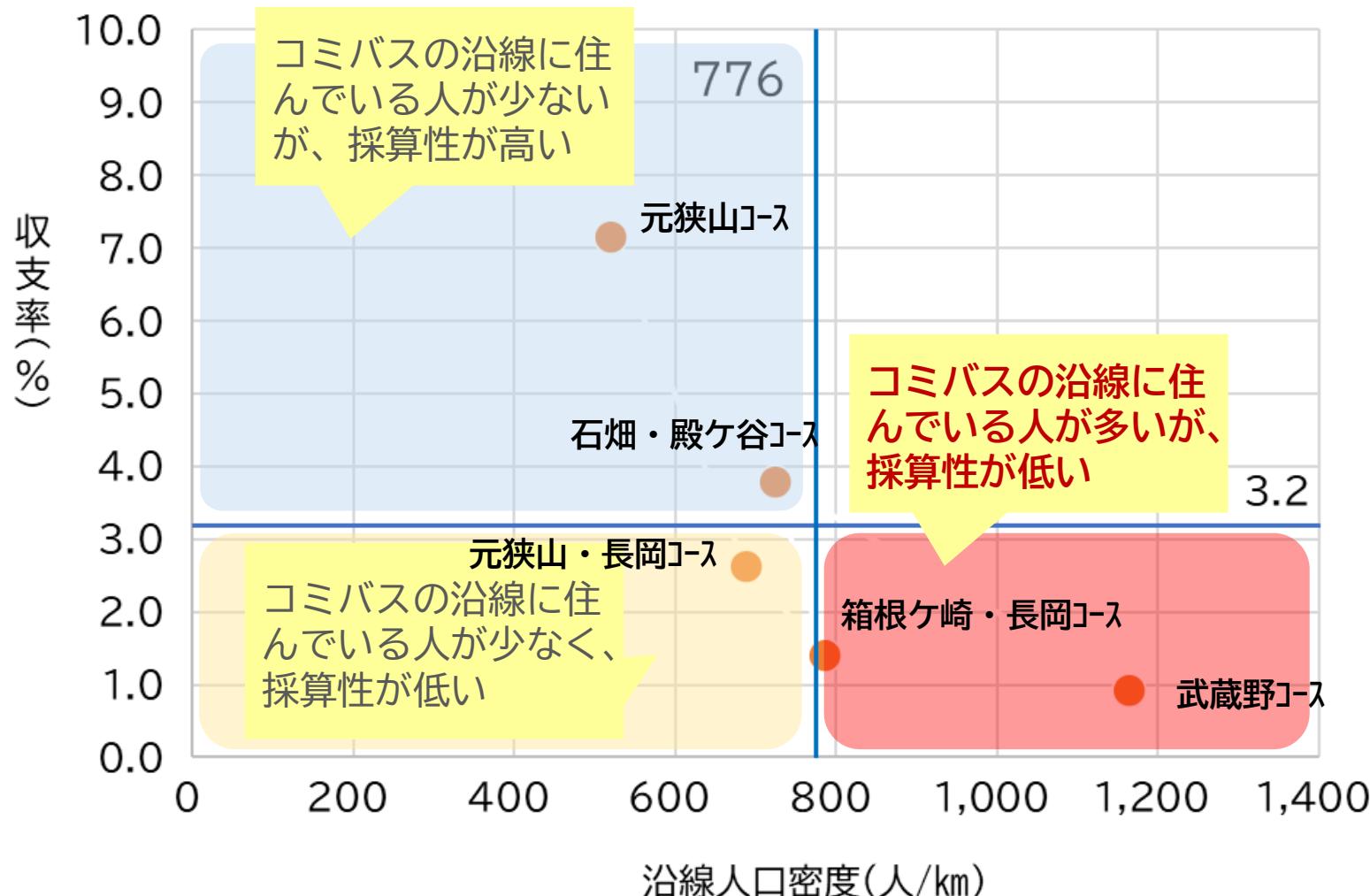
## 2) 運行評価基準の考え方（案）

### 沿線人口密度とコミュニティバスの収支率（令和3年度実績）

収支：運賃収入÷運行経費

沿線人口密度：沿線から300m内人口÷運行距離

—— 平均値



## 2) 運行評価基準の考え方（案）

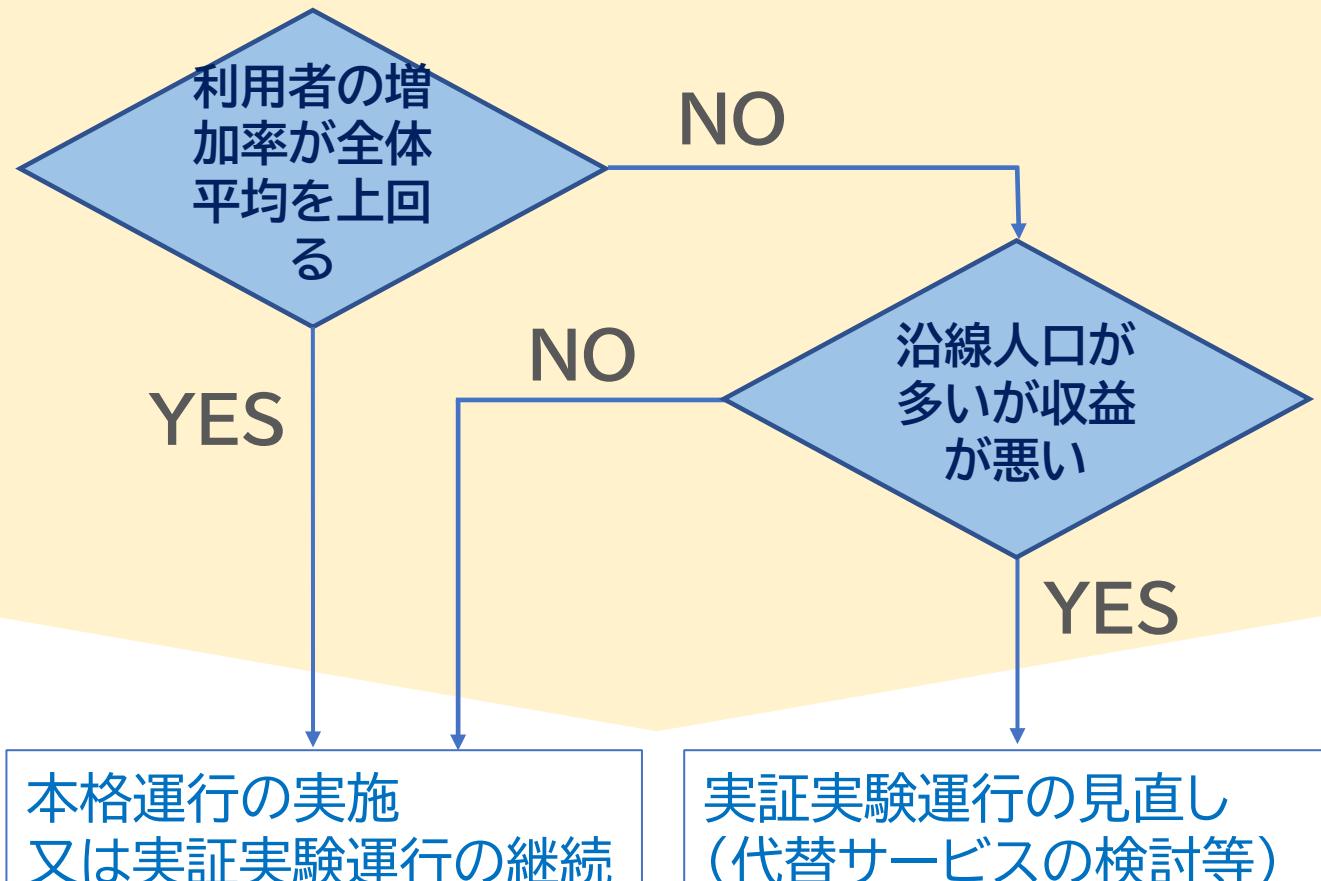
- ◆ 利用者が増えている場合は、地域にコミュニティバスのサービスが受け入れられ、移動手段として期待されていると考え、運行を継続する
- ◆ 利用者が増えない場合は、そもそも利用ニーズがないか、運行計画に問題があると考え、抜本的に運行を見直す。運行計画の見直しに際しては、鉄道、路線バスと連携して地域の公共交通ネットワーク機能を高める将来像に向け、路線バスの運行に影響を与えない範囲で行う
- ◆ 評価は、客観的に他の路線よりも利用が少ない、収支率が悪いとで評価する（相対的な比較）

## 2) 運行評価基準の考え方（案）

令和3年10月

実証実験運行開始

### 利用促進に向けた運行計画の適宜変更



令和6年9月

## 4. 実証実験期間の延長

# 1) 実証実験期間の延長

- コロナ禍のまん延防止による生活様式の変化に伴い、全国的に公共交通の利用が減少している中で、他都市と同様に本町のコミュニティバスの利用は低調
- コロナ禍の2年間で「継続」「見直し」を判断するのは時期尚早と考え、実証実験を1年間延期し、令和6年9月までとする

	令和4年度	令和5年度		令和6年度	
	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期
実証実験運行	当初実証運行(2年間)		実証運行の延期		本格又は見直し
運行評価	利用状況を踏まえ評価基準を決定		評価		
運行計画の見直し		★ 利用状況から運行形態の変更を含め適宜検討			
利用者アンケート調査		運行計画の変更			
地域住民との意見交換会					
地域公共交通会議	③	①	②	③	① ② ③